

# 小笠原諸島の概要

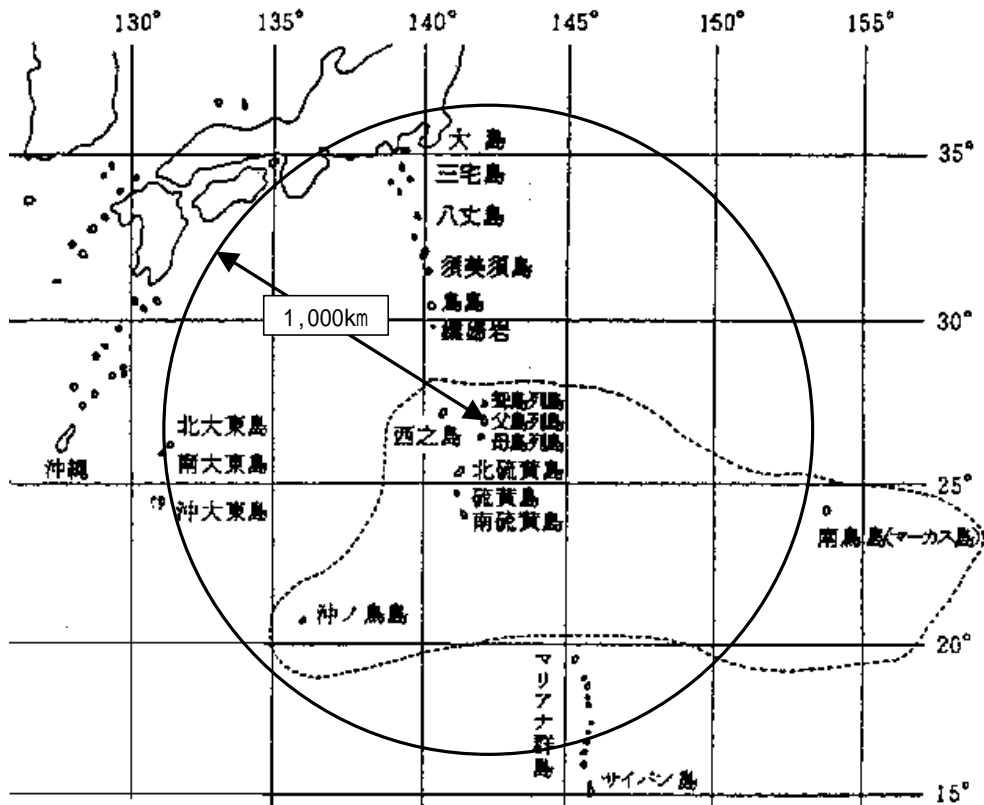
## 目次

1 . 地理的特徴 .....	1
2 . 自然的特徴 .....	2
2 . 1 小笠原の自然概況 .....	2
2 . 2 自然公園 .....	6
3 . 歴史的特徴 .....	8
4 . 社会的、経済的特徴 .....	10
4 . 1 人口 .....	10
4 . 2 産業 .....	13
4 . 3 土地利用 .....	18
4 . 4 交通・生活基盤 .....	19
4 . 5 所得 .....	22
4 . 6 物価 .....	24

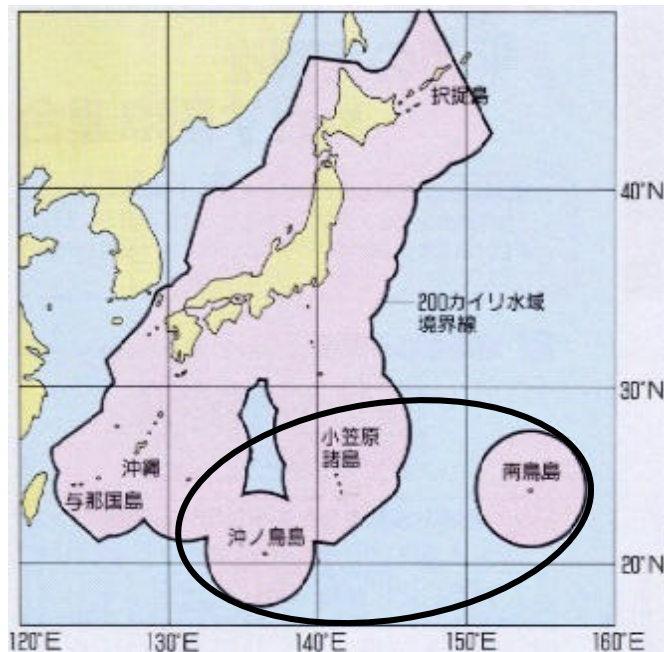
# 1. 地理的特徴

小笠原諸島は、東京から約 1,000km 南に位置し、父島、母島を中心に、わが国の最南端、最東端に位置する沖の鳥島、南鳥島（マークス島）など、約 30 の島から構成されており、わが国の経済水域の約 1 / 3 を占める。

図表 1 - 1 小笠原の位置 - サイパン、グアムに近い小笠原諸島 -



図表 1 - 2 わが国経済水域の 1 / 3 を占める小笠原諸島



## 2 . 自然的特徴

### 2 . 1 小笠原の自然概況

小笠原諸島は、その地理的特性および気象的特性から、世界的にも固有種比率が高いという特殊な植生を有している。

しかし、人為的影響に加え、台風常襲地であることなどの自然的影響のため移入種や病害虫等による生態系への影響がでており、自然環境保全のあり方が課題となっている。

小笠原諸島は約 300 万年前の山体形成以来一度も大陸と接触した歴史をもたない孤立した海洋島である。そのため島の動植物は全て遠くの島々や大陸から移入した種の子孫であり、それら構成要素の相互の微妙なバランスの上に保たれた世界に類を見ない固有の生態系を成立させている。

1995 年 10 月にわが国で発表された「生物多様性国家戦略」において、小笠原諸島は自生の高等植物の 4 割近く、陸島のほとんどすべて、陸産貝類の約 4 分の 3 が固有種・亜種であるとされている。

また、亜熱帯における高温で降水量が少ないという特殊な条件下に成立する植生であり、まとまって見られる場所は世界的にもほとんどない乾性低木林等、特異な生態系が存在する。もともと日本の動植物相は固有種あるいは固有亜種の比率が高いが、その中でも、特にこの傾向が顕著である琉球列島と小笠原諸島は東洋のガラパゴスと呼ばれることが多い。

しかし、明治以降の乱伐や開墾による土壌流出によって、明治時代末期には、兄島全域と父島東部そして母島東部の保護林を除いて、小笠原の森林は殆ど消滅するに至った。さらには希少動植物の不法採取や入植者等が持ち込んだノヤギ、セイヨウミツバチやアフリカマイマイ、リュウキュウマツ、アカギなどの移入動植物による生態系の攪乱のため、兄島以外の島々では固有の生態系が残っているのはごく一部の地域に限られる状況にある。

特に、小笠原諸島は台風の発生、常襲地であるなど過酷な環境にあり、台風時の気流による動植物の移入のほか、病害虫などの影響も受け易いなど生態系は脆弱である。

◆ 植物の特徴

- ・周りの地域に近縁種が多い。

直接の祖先は周辺他地域からの移入とされており、鳥散布が70%（特に鳥被食型）と言われている。

- ・固有種が多いが、全体の種類は少ない。

自生種約300種のうち40%が固有種。（シダ類17%・草本26%・樹木約70%）

◆ 陸上生物の特徴

- ・在来の哺乳類：オガサワラオオコウモリ 爬虫類：オガサワラトカゲ

- ・哺乳類：オオコウモリ（天然記念物）父島で130頭ぐらい、草食性

- ・鳥類：陸鳥の種少ない オガサワラノスリ・アカガシラカラスバト・ハハジマメグロ、トラツグミ・ヒヨドリ・ウグイス・イソヒヨドリ・モズなど

- ・海鳥の繁殖地 カツオドリが代表的

- ・爬虫類：5種類（ウミガメを除く） 両生類：2種類

- ・昆虫：わりと目に付きにくい。天然記念物10種類

チョウ・トンボ・ガ・甲虫・アリ・セミ・アメンボ・ハチなど

- ・陸生甲殻類：オカヤドカリ4種、大半はムラサキオカヤドカリ。

- ・代表的な天然記念物

哺乳類：オガサワラオオコウモリ

鳥類：アカガシラカラスバト・オガサワラノスリ・ハハジマメグロ

甲殻類：オカヤドカリ

海産貝類：カサガイ

陸産貝類：固有のもの

◆ 植物；代表的固有種

<タコヅル>

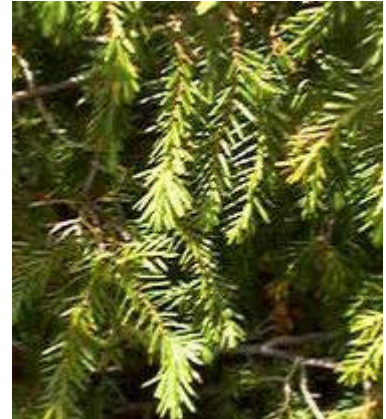
- ・タコノキのような葉だが、他の木にまきついて生長する。

- ・固有種、雌雄異体



#### <シマムロ>

- 針葉樹では小笠原唯一の固有種。
- 針葉樹は長距離の散布に適さないと考えられているが、例外的にヒノキ科のビャクシン（ネズ）の類だけがバーミューダやカナリア諸島、小笠原や硫黄島にも生息していることが知られている。
- 固有種、雌雄異株 ヒノキ科ビャクシン属



#### <オガサワラグワ>

- 絶滅が危惧されていたが、最近、弟島の鹿浜の山の斜面に 38 株の純系オガサワラグワが発見された。

#### <マルハチ>

- 大型の木性シダ。葉痕が円の中に逆さ八の字になっているためこの名前がついた。



#### <オオハマギキョウ>

- 光沢のある細長い葉を多数輪生する。種子から 5 ~ 6 年には 3 m ぐらいに成長し、黄白色の花を多数つけて数万粒の種子をまき散らした後に枯死する。
- 向島、妹島には多い。山羊の食害のため父島では一時数株まで減ったといわれるが、焼場海岸には多数の自生が見られる。



### <ムニンツツジ>

- 野性のものは父島つつじ山に1株残るだけの絶滅危惧種。他所に植えても数年で枯死してしまう。ノボタンと同じような植え戻しを行っているところ。



### <ヒメツバキ>

- コウモリ媒花の特徴群に属し、オガサワラオオコウモリと関係を持っている花ではないかと考えられている。



出展：<http://home.att.ne.jp/gold/km/plants/koyu.htm>

## 2.2 自然公園

小笠原の豊かな自然（風景地）を保護し、活用する目的で、国立公園の指定を受けており、特に特別保護地区の面積比率が高い。

図表 2 - 1 国立公園地種区分別面積（平成12年）

		特別保護 地 区	特別地域				普通地域	合 計
			第 1 種	第 2 種	第 3 種	小 計		
小笠原	実数 (ha)	2,474	1,022	2,043	241	3,306	319	6,099
	割合 (%)	40.6	16.7	33.5	4	54.2	5.2	100.0
全 国	実数 (ha)	265,509	231,560	506,649	452,803	1,191,012	589,987	2,046,508
	割合 (%)	13.0	11.3	24.8	22.1	58.2	28.8	100.0

注：小笠原は、父島、母島以外の離島を含む

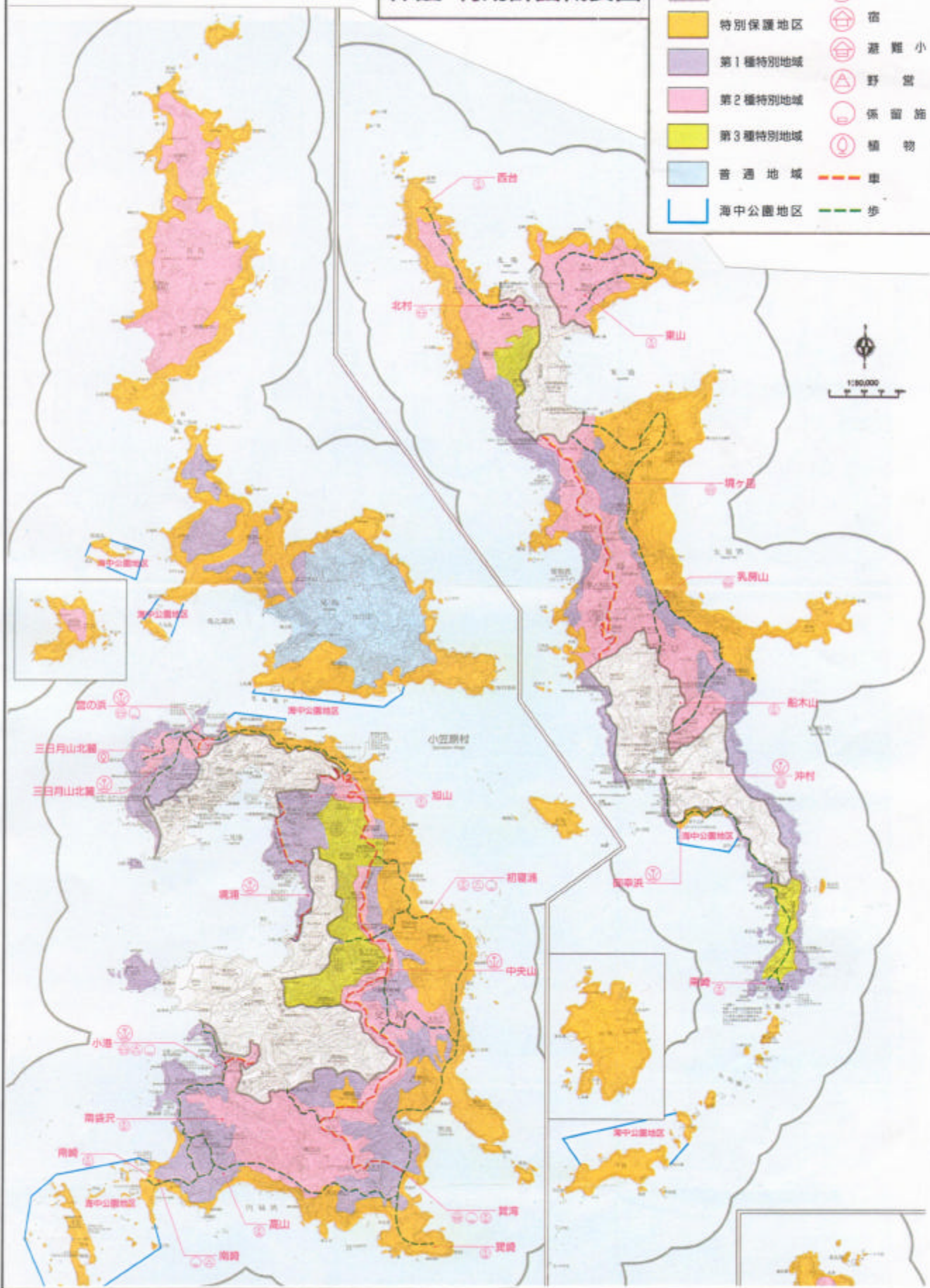
出典：環境省 HP



# 小笠原国立公園 保護・利用計画概要図

## 凡例

- |  |         |  |      |
|--|---------|--|------|
|  | 公園区域    |  | 園地   |
|  | 特別保護地区  |  | 宿舎   |
|  | 第1種特別地域 |  | 避難小屋 |
|  | 第2種特別地域 |  | 野営場  |
|  | 第3種特別地域 |  | 保留施設 |
|  | 普通地域    |  | 植物園  |
|  | 海中公園地区  |  | 車道   |
|  |         |  | 歩道   |





### 3. 歴史的特徴

発見以来、明治9年に日本領土として国際的に認知された小笠原は、その後、農業、漁業を基幹産業として発展するが、第二次世界大戦時に全員が本国に強制疎開されるという歴史的特性を有している。

<b>発見から開拓、疎開、返還まで</b>	
1593年	小笠原貞頼が小笠原諸島を発見し、上陸して目標を立て、物産を持ち帰ったと伝えられる。
1675年	幕府が建造した唐船で、島谷市左衛門らに命じて小笠原を探索させる。4月下田発、日本領を宣言して6月に帰港する。
1824年	イギリスの捕鯨船が母島に寄港して、沖港をコッフィン港と命名する。
1827年	イギリスの軍艦が父島に寄港して、父島をピールアイランドと命名する。
1830年	アメリカ人ナサニエル・セーボレーら、欧米人(5人)とハワイ先住民(20数人)が父島の奥村に定住する(最初の居住者)。大根山の墓地には墓碑が現存する。
1835年	父島のジョン・ブラボーら7名が母島に移住する。
1853年	ペリーはサスケハンナ号に乗り、サラトガ号を従えて浦賀に向かう前の5月に琉球から小笠原に来航、セーボレー氏と交渉して石炭貯蔵地などを購入する。7月にロシア艦隊が父島に来航する。
1861年	幕府が小笠原の開拓を命じ、咸臨丸を派遣する。12月19日に二見港着、住民に日本領であることを宣す。
1862年	1月24日、小笠原全島取締規則・港規則を説明。島民は日本に従うことを了承する。8月朝陽丸が再入港し、八丈島から移民38名が到着する。
1863年	ジョン万次郎が幕府の許可を得て、小笠原近海で捕鯨を行う。幕府は小笠原の開拓を中断し、日本人の移民・役人を引き揚げさせる。
1873年 (明治6年)	ロンドン紙、ピースなる人物が小笠原のアメリカ領を主張と報道。アメリカ政府は否定。イギリスが小笠原の所属を日本に質問する。
1875年 (明治8年)	イギリスがたびたび日本に対して小笠原開拓の見解を質す。政府は小笠原開拓に着手、田辺、小花氏らを派遣。先住民は日本への帰属を了承。
1876年 (明治9年)	国際的に日本領土として認められ、内務省小笠原島出張所仮庁舎を扇浦に設置する。この年の日本人移民37名。
1880年 (明治13年)	小笠原が東京府に移管され、東京府出張所が開設される。
1882年 (明治15年)	小笠原の先住民全員が日本に帰化する。
1885年 (明治18年)	扇浦小学校が開校する。綿花の栽培がさかんになる。汽船が母島にも寄港するようになる。
1886年 (明治19年)	小笠原島庁が設置される。沖村小学校が開校。郵便局が開局される。金玉均が小笠原に移される。
1891年 (明治24年)	硫黄島が小笠原島庁の所管となる。
1898年 (明治31年)	海亀捕獲組合が結成される。南鳥島が小笠原島庁の所管となる。

1926年 (大正15年)	小笠原島庁は郡制を廃止し、東京府小笠原支庁と改められる。
1927年 (昭和2年)	天皇、戦艦「山城」で父島、母島に行幸される。
1931年 (昭和6年)	沖ノ鳥島が小笠原支庁の所管となる。
1940年 (昭和15年)	大村、扇村袋澤村、沖村、北村、硫黄島村ら5カ村に村制が施行される。
1944年 (昭和19年)	住民6,886人(残留者825人)が本土へ強制疎開。
1946年 (昭和21年)	米軍の直接統治の下に置かれる。小笠原への即時帰島の請願開始。
1950年 (昭和25年)	小笠原島民の帰島調査(即時帰島希望者500世帯、約3,000名)。
1951年 (昭和26年)	対日講和条約が調印される。
1952年 (昭和27年)	対日講和条約の発効により、小笠原支庁および各村役場が廃止され、役場の一般事務が東京都総務局行政部地方課分室で行われる。
1965年 (昭和40年)	第一回墓参団が渡島する。
1967年 (昭和42年)	佐藤・ジョンソン会談で、小笠原返還について合意がなされる。
1968年 (昭和43年)	4月5日、小笠原返還協定調印。6月26日、小笠原諸島が日本に返還される。小笠原村設置。小笠原総合事務所、東京都小笠原支庁および、小笠原村役場の行政機関の設置。

参考資料：管内概要(東京都小笠原支庁) <http://plaza7.mbn.or.jp/~ruthann/History.htm>、

#### < 小笠原の戦争遺跡に関して >

小笠原の近海には、今なお戦争の傷跡ともいえる数多くの軍艦や、旧日本軍が徴収した民間船の残骸が沈んでいる。

そして、父島、母島には、何キロにも及ぶ壕がめぐらされ、本土決戦に備えて整備された高射砲、トーチカ、銃眼、通信司令部、野戦病院などや当時の人たちが使っていた品々が、風化が進んでいるとはいえ、ほぼそのままの形で残されている。

父島や母島では地上戦は行われなかったが、配備された旧日本軍は、食糧の補給を絶たれ、その多くが餓死した。そうした事実を物語る貴重な戦跡が、野ざらしの状態にある。

戦跡は、近代の遺跡として、学術的にも貴重な価値を持つことから、国においては、平成7年に文化財指定基準が改正され、第2次世界大戦終了までの戦跡について史跡指定が可能となっている。

この小笠原に残る戦跡を、ジャングルに埋もれて荒れるままに放置しておくのではなく、史跡として、きちんとした形で保存し、残していくことが大切ではないかと考える。また、そのことは、これらが観光資源となって小笠原の振興にも寄与するものと期待される。

(資料：東京都議会本会議議事録より抜粋)

## 4 . 社会的、経済的特徴

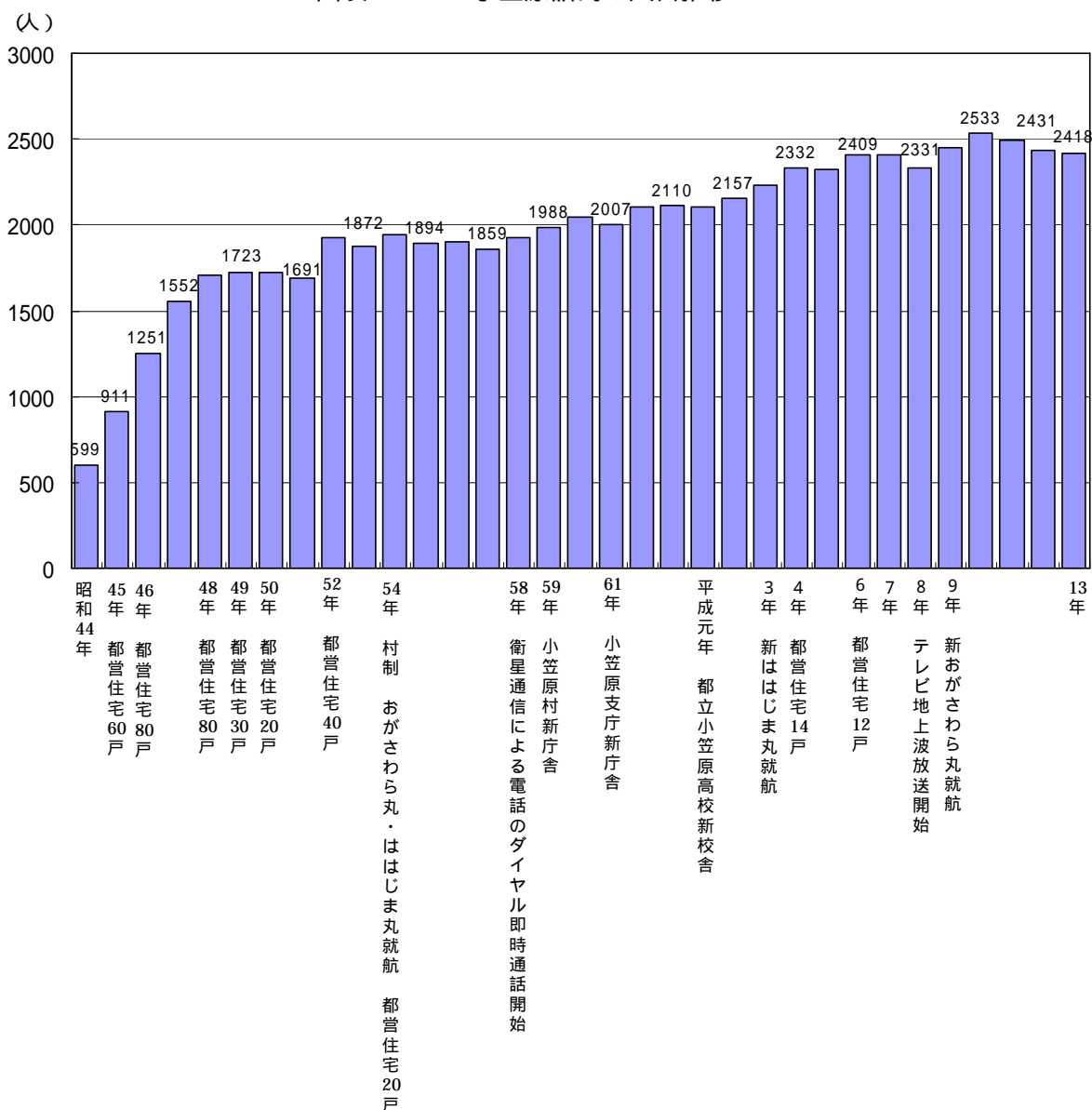
### 4 . 1 人口

返還後は、都営住宅の整備等により人口は増加基調を続けてきていたが、平成 10 年度以降はやや減少基調に転じている。平成 13 年度は、常住者及び短期滞在者（建設業等）を含めて 2,418 人となっているが、この内、帰島者は 510 人にすぎず、近年減少基調にある。

また、常住人口の多くが父島に居住している。

小笠原の産業別就業者数構成をみると、第三次産業の割合が最も大きく、全国平均を上回っている。一方、わが国の離島では平均して第一次産業の割合が高いが、小笠原は離島全体と比較して低い水準にある。

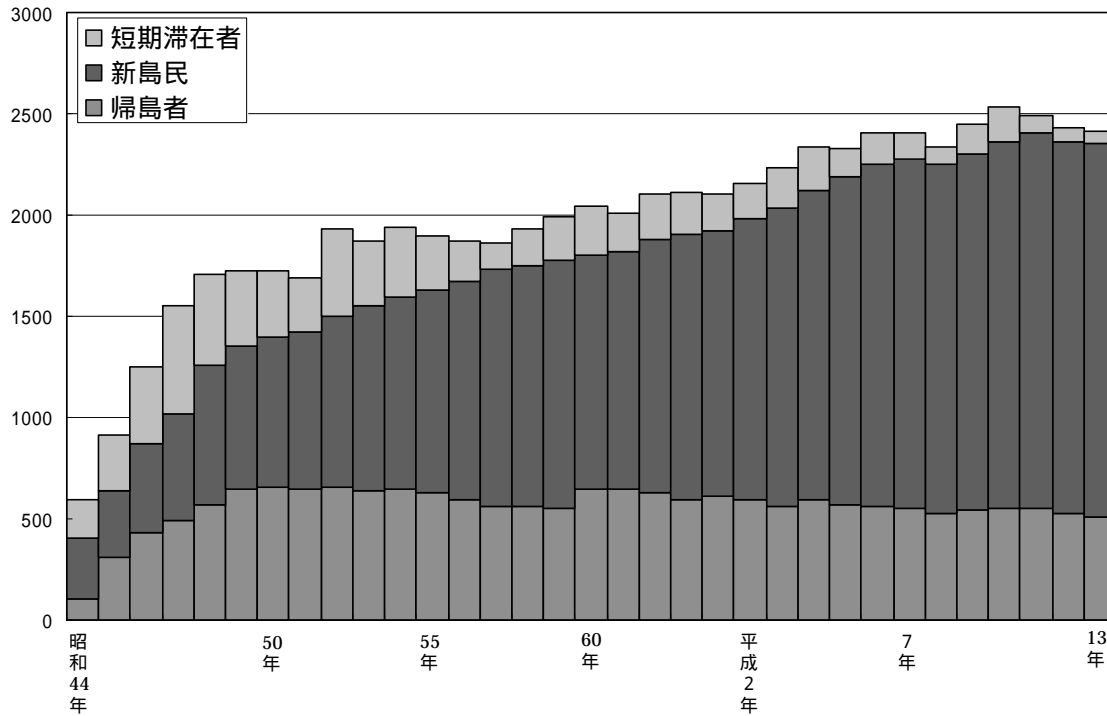
図表 4 - 1 小笠原諸島の人口推移



資料：年度別小笠原諸島在島人口調（小笠原諸島振興開発事業の成果、東京都）

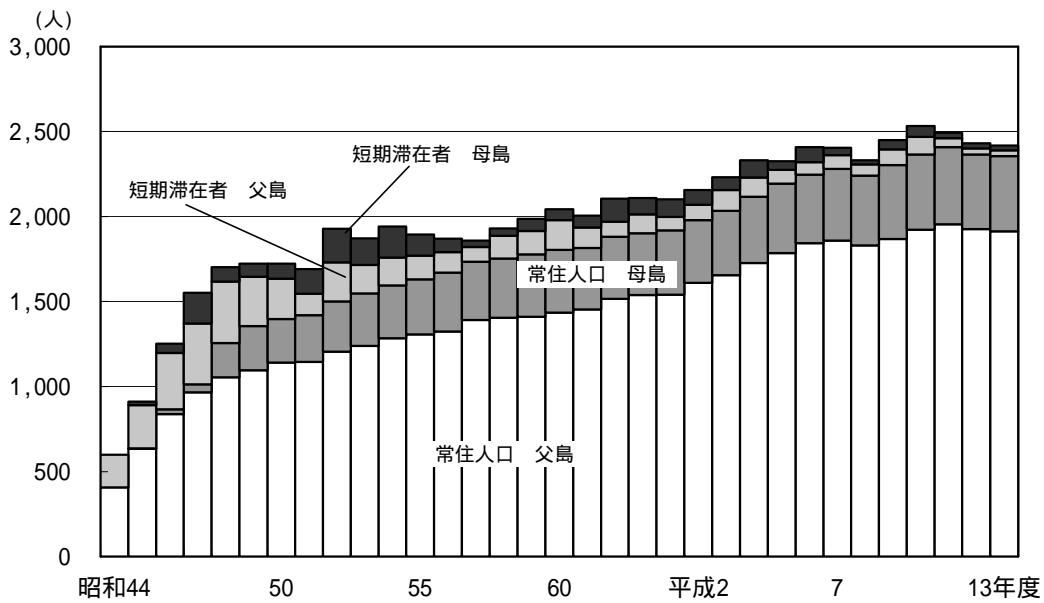
(人)

図表4-2 帰島者等の推移



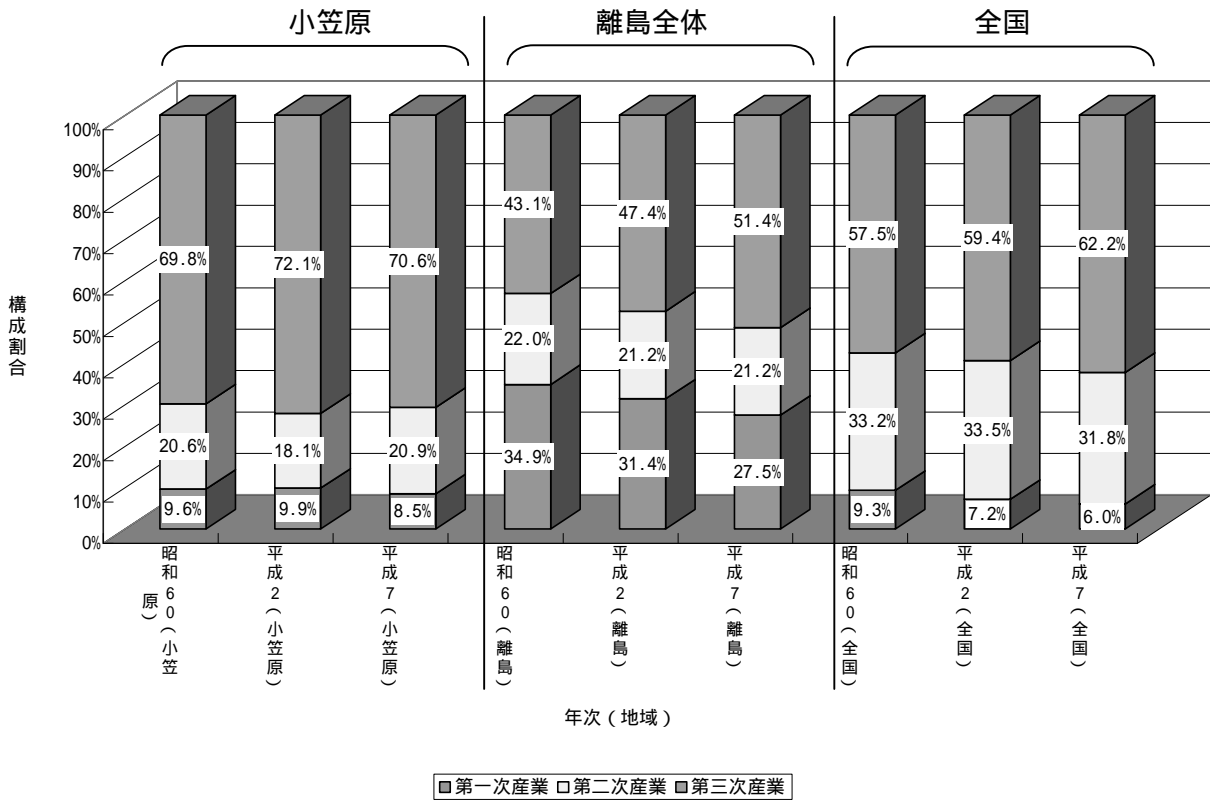
資料：年度別小笠原諸島在島人口調（小笠原諸島振興開発事業の成果、東京都）

図表4-3 島別常住、短期滞在者別人口推移



資料：年度別小笠原諸島在島人口調（小笠原諸島振興開発事業の成果、東京都）

図表 4 - 4 産業別就業数構成の比較



資料：国勢調査



## 4.2 産業

### (1) 農業

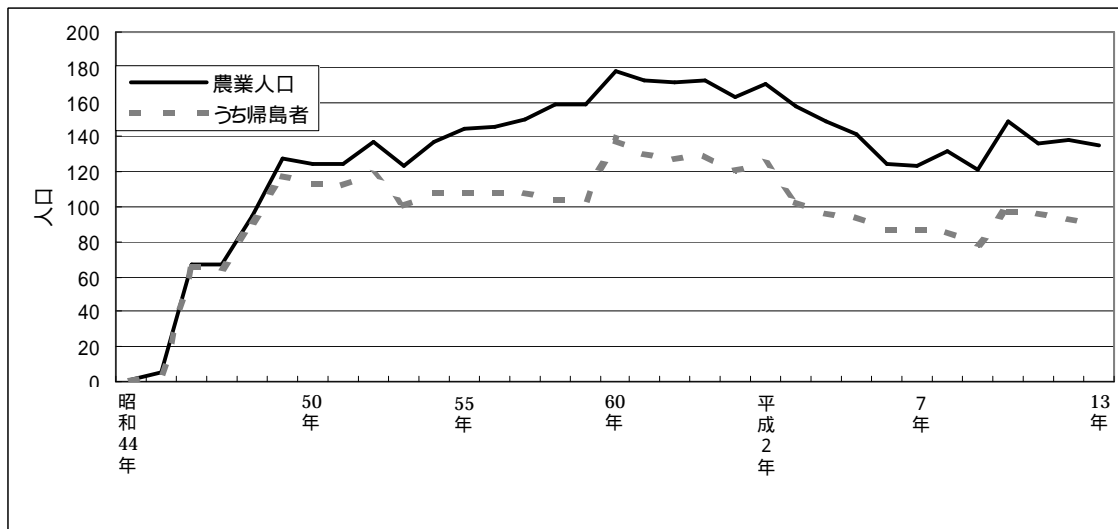
農業人口は返還後増加基調が続いていたが、昭和60年の178人をピークに減少基調に転じ、平成13年で135人となっている。

また、農業人口の多くが帰島者である。

農業生産額は、昭和57年から昭和58にかけて花き観葉及び果実の出荷の増加により急増したが、その後は横ばい基調が続いている。

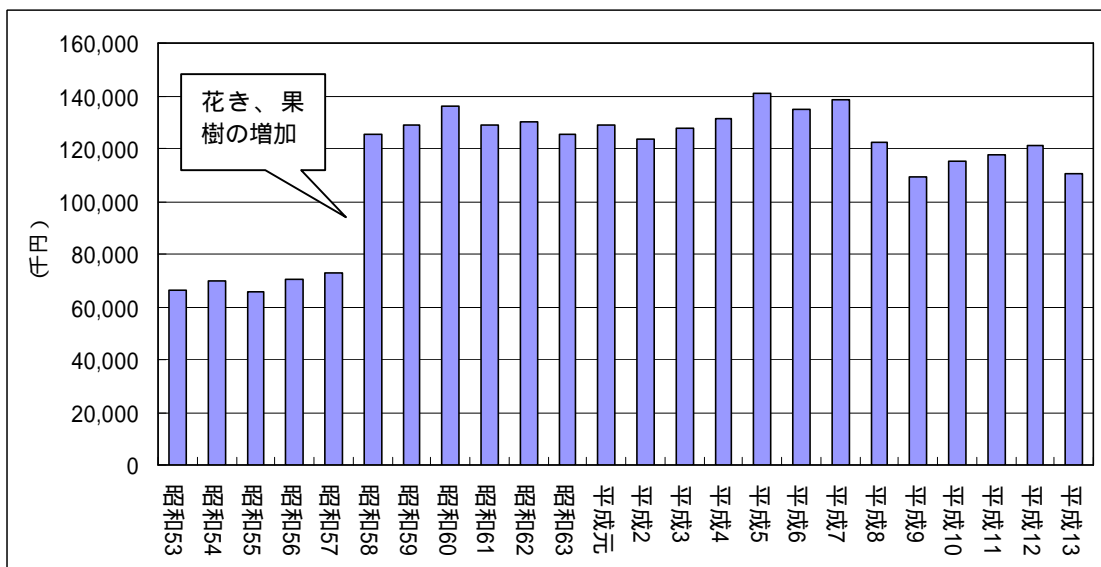
しかし、昭和60年の農業生産額を100とした指標でみると、平成11年は離島平均と同程度となっており、やや減少基調にある(図表4-10)。

図表4-5 農業人口の推移



資料：年度別小笠原諸島在島人口調（小笠原諸島振興開発事業の成果、東京都）

図表4-6 農業生産額の推移



資料：管内概要（東京都小笠原支庁）

(2) 漁業

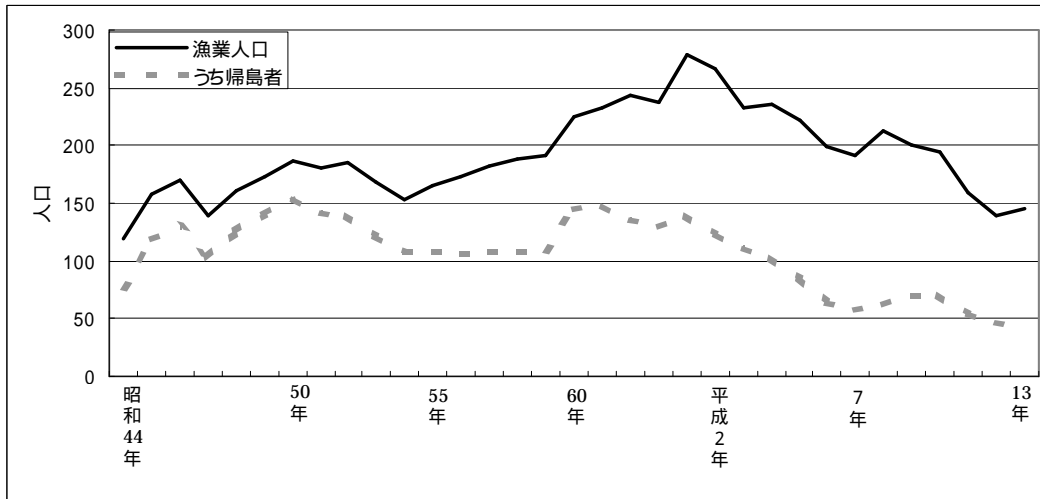
漁業人口は昭和54年以降増加基調にあったが、平成元年の279人をピークに減少に転じており、平成13年には145人となっている。

また、漁業人口が増加しはじめた昭和54年を境に、それまで多くを占めていた帰島者の割合が減少してきている。

漁業生産額の推移は返還以降増加基調にある。とりわけ、しまあじの種苗・中間魚などの養殖が開始された平成2年に急増した。その後は横ばい基調にある。昭和60年の生産額を100とした指標では、近年は離島平均値を上回る値を示している(図表4-10)。

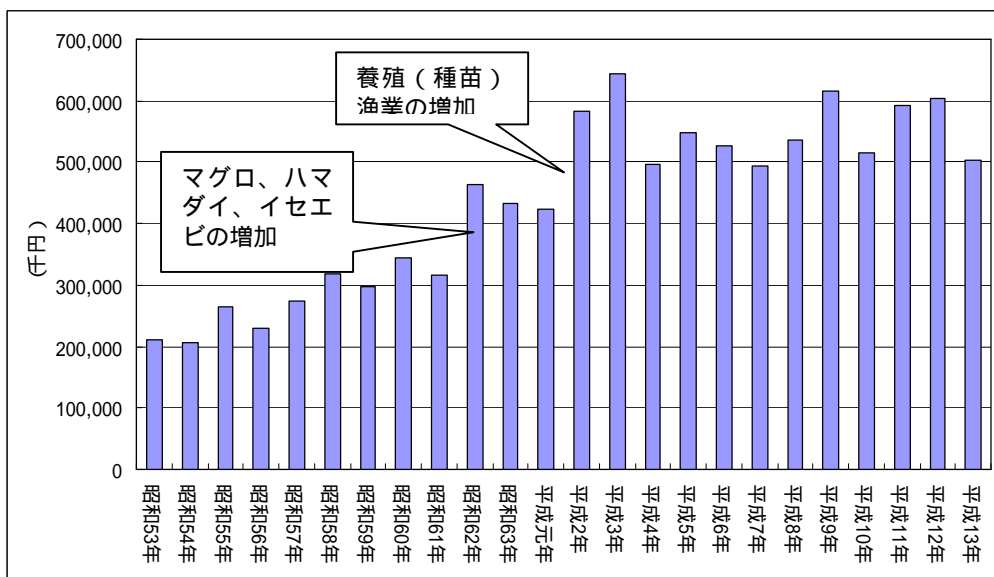
小笠原の漁業は、わが国及び離島全体に比較して専業割合が極めて低くなっている。

図表4-7 漁業人口の推移



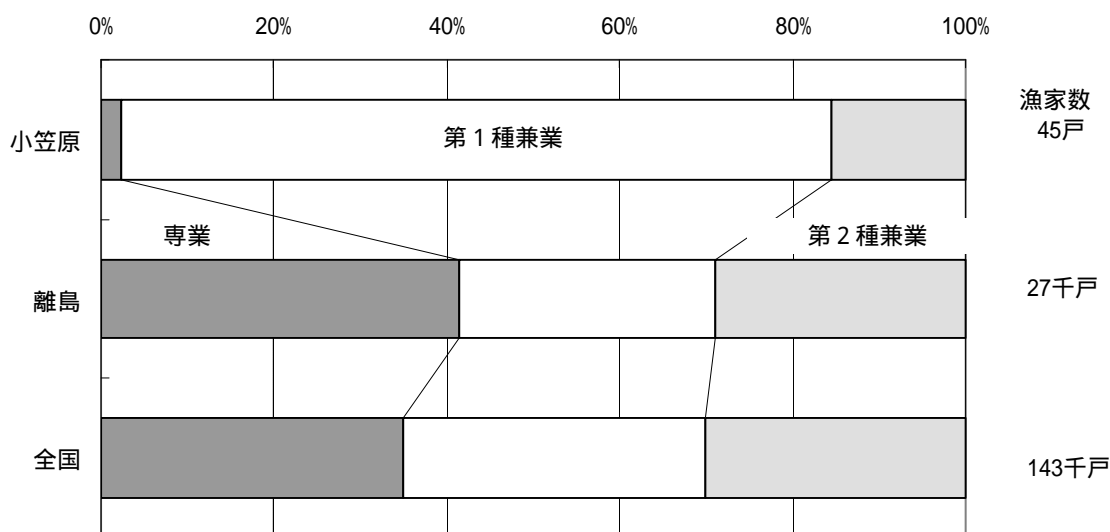
資料：年度別小笠原諸島在島人口調（小笠原諸島振興開発事業の成果、東京都）

図表4-8 漁業生産額の推移



資料：管内概要（東京都小笠原支庁）

図表4 - 9 専業・兼業別漁家割合の比較（平成7年）



資料：漁業センサス、離島統計年報

図表4 - 10 小笠原諸島の農業、漁業等の比較

項目		S50	S55	S60	H2	H7	H11	
小笠原諸島	産業別	一次産業 (%)	11.6	-	9.6	9.9	8.5	-
	二次産業 (%)	24.0	-	20.6	18.1	20.9	-	
	三次産業 (%)	64.3	-	69.8	72.1	70.6	-	
	生産額等	農業生産額の推移 (百万円)	48.7	65.7	135.9	131.1	138.4	117.5
		(指数)	-	-	100.0	96.5	101.8	86.5
		農家一戸あたり生産額 (百万円)	1.0	1.4	2.6	2.5	2.4	2.3
		(指数)	-	-	100.0	96.5	93.1	88.1
	漁業生産額の推移 (百万円)	-	265.0	343.7	583.2	493.3	593.3	
	(指数)	-	-	100.0	169.7	143.5	172.6	
	漁家一戸あたり生産額 (百万円)	-	-	7.8	12.2	11.0	14.8	
(指数)	-	-	100.0	155.5	140.3	189.9		
全国離島	産業別	一次産業 (%)	-	-	34.9	31.4	27.5	-
	二次産業 (%)	-	-	22.0	21.2	21.2	-	
	三次産業 (%)	-	-	43.1	47.4	51.4	-	
	生産額等	農業生産額の推移 (億円)	1,111	1,366	1,624	1,564	1,469	1,414
		(指数)	-	-	100.0	96.3	90.5	87.1
		農家一戸あたり生産額 (百万円)	1.1	1.8	1.8	2.2	2.3	2.1
		(指数)	-	-	100.0	122.2	127.8	119.4
	漁業生産額の推移 (億円)	1,359	2,414	2,948	3,212	2,703	2,254	
	(指数)	-	-	100.0	109.0	91.7	76.5	
	漁家一戸あたり生産額 (百万円)	-	-	8.2	10.1	9.1	8.3	
(指数)	-	-	100.0	123.2	111.0	101.0		

資料：管内概要（小笠原支庁）、国勢調査、離島統計年報、漁業センサス、農業センサス

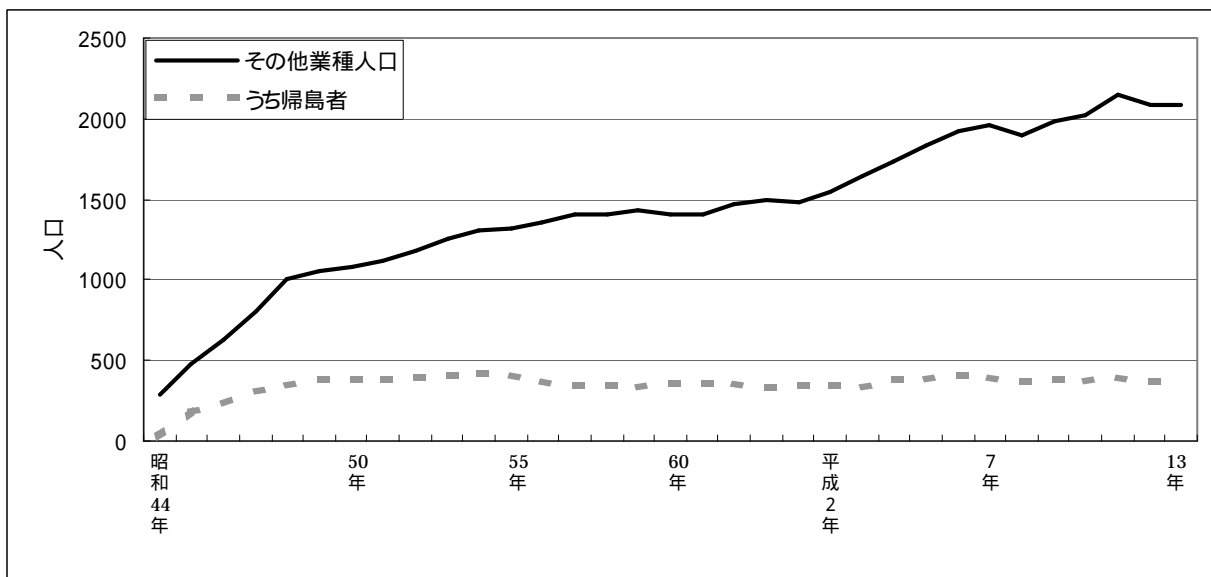
### (3) 観光

小笠原の観光は全国的にも認知されてきており、観光に係わり合いの強いサービス業や卸・小売業等のその他業種人口（その他人口は、サービス業、建設業、公務、卸・小売業で90%以上を占めている）は一貫して増加基調にある（図表4-11）。

観光客数は、着実に増加してきたが、平成9年以降は30,000人/年強で横ばい基調にある。島別では父島が圧倒的に多くなっている（図表4-12）。

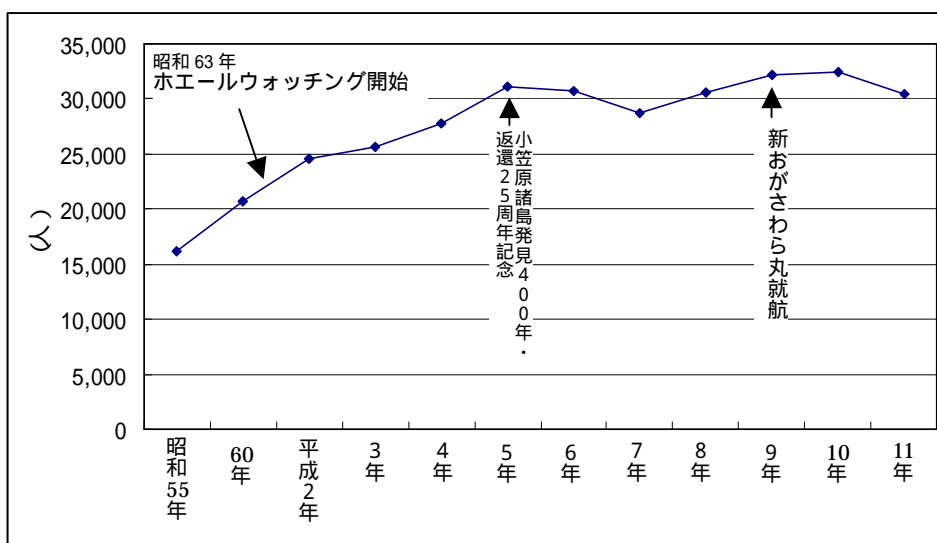
昭和59年の観光客数を100とした指標は増加基調を示しているが、離島平均よりも低い水準となっている。（図表4-13）。

図表4-11 その他業種（サービス、建設、製造、卸・小売、公務、その他の各業種の合計）人口推移



資料：年度別小笠原諸島在島人口調（小笠原諸島振興開発事業の成果、東京都）

図表 4 - 12 観光客数の推移



資料：観光レクリエーション時報（東京都）

図表 4 - 13 小笠原諸島の観光関連指標の比較

		S49	S54	S59	H1	H6	H11
小笠原諸島	観光客数 (千人)	10.0	15.8	22.1	23.3	30.7	30.4
	(指数)	-	-	100.0	105.4	138.9	137.6
	宿泊客数 (千人)	-	-	-	57.0	75.3	83.4
離島全体	観光客数 (万人)	1,840	1,260	1,240	2,106	1,781	2,091
	(指数)	-	-	100.0	169.8	143.6	168.6
	宿泊客数 (万人)	-	-	-	896.0	805.0	1,014.4
小笠原諸島	宿泊収容力 (人)	552	796	933	859	913	1,120
	(指数)	-	-	100.0	92.1	97.9	120.0
	離島全体	105,435	114,216	141,439	136,351	123,675	122,218
小笠原諸島	宿泊収容力 (人)	-	-	100	96.4	87.4	86.4
	(指数)	-	-	100	96.4	87.4	86.4

資料：「離島統計年報」、小笠原の宿泊客数については管内概要（東京都）より



#### 4.3 土地利用

返還後の土地利用の推移をみると、振興計画においては農業用地の開発、振興開発計画では住宅整備等の集落地域の整備を中心とした土地利用が推進されている。

図表4 - 14 土地利用計画の変遷

(km<sup>2</sup>)

島別 地域別	父島			母島			その他			計		
	復興計画	振興計画	振興開発計画	復興計画	振興計画	振興開発計画	復興計画	振興計画	振興開発計画	復興計画	振興計画	振興開発計画
集落地域	0.78	0.78	1.07	0.19	0.19	0.22	-	-	-	0.97	0.97	1.29
農業地域	1.86	3.68	3.46	1.91	3.08	3.05	-	-	-	3.77	6.76	6.51
自然保護地域	17.55	17.49	17.49	17.65	15.49	15.49	34.26	34.47	34.47	69.46	67.45	67.45
その他地域	3.76	2.00	1.97	1.05	2.04	2.04	3.40	26.92	26.92	8.21	30.96	30.93
計	23.95	23.95	23.99	20.80	20.80	20.80	37.66	61.39	61.39	82.41	106.14	106.18

#### 4.4 交通・生活基盤

##### (1) 本土との交通アクセス

東京と父島を結ぶ船便の所要時間は、44 時間 38 時間 29 時間 25 時間 30 分と振興開発事業による新造船が就航する度に、短縮されてきている。しかし、例えば伊豆諸島の島嶼と比較しても、頻度、所要時間、費用、代替手段とも大きく遅れている。

図表 4 - 15 小笠原諸島における東京からのアクセス比較

		小笠原		八丈島	
		父島	母島		青ヶ島
東京からの距離		984km	+ 49km	287km	+ 71km
船舶	頻度	約 1 便/6 日 ピーク時約 1 便/3 日	約 2 便/3 日	毎日 1 便	月～土曜日の毎日 1 便
	所要時間	約 25 時間 30 分	約 2 時間	約 11 時間	約 2 時間 30 分
	費用	2 等 22,570 円	2 等 3,780 円	2 等 7180 円	2,280 円
航空機等	頻度			毎日 4 往復	ヘリコプター 毎日 1 便
	所要時間			約 45 分	約 20 分
	費用			17,000 円	11,210 円

資料：小笠原海運 HP、東海汽船 HP、八丈町 HP、青ヶ島村 HP

##### (2) 道路の整備状況

小笠原の道路舗装率は、昭和 60 年以降、都道でほぼ 100%の舗装率となっているほか、村道に関しても離島全体を上回る水準で推移している。また、規格改良も高い水準で整備されている状況となっている。

図表 4 - 16 道路舗装率の推移

			昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
小笠原	都道	道路実延長(km)	31.6	28.6	32.0	31.1	31.1
		舗装延長(km)	21.4	28.6	31.9	31.1	31.1
		道路舗装率(%)	67.7	100.0	99.7	100.0	100.0
	村道	道路実延長(km)	15.1	15.4	17.3	14.1	13.2
		舗装延長(km)	7.5	9.7	11.6	13.7	12.8
		道路舗装率(%)	49.7	63.0	67.1	97.2	97.0
離島全体	国・県道	道路実延長(km)	2,866.8	3,842.6	3,931.4	3,877.1	4,174.2
		舗装延長(km)	2,099.5	3,340.4	3,650.3	3,745.1	3,978.3
		道路舗装率(%)	73.2	86.9	92.8	96.6	95.3
	市町村道	道路実延長(km)	15,505.9	10,745.0	17,629.1	17,819.3	18,011.3
		舗装延長(km)	3,914.4	7,781.0	10,097.9	11,048.2	11,813.4
		道路舗装率(%)	25.2	72.4	57.3	62.0	65.6

資料：離島統計年報

図表 4 - 17 平成 12 年における道路整備状況

延長距離 (km)

		実延長	規格改良延長	未改良延長	舗装延長	未舗装延長
小笠原 (父島)	都道	31.1	31.1		31.1	
	村道	13.2	12.7	0.5	12.8	0.4
離島全体	国県道	4,174.2	3,282.1	892.1	3,978.3	195.5
	市町村道	18,011.3	7,712.9	10,298.4	11,813.4	6,197.9

構成比 (%)

		実延長	規格改良延長	未改良延長	舗装延長	未舗装延長
小笠原 (父島)	都道	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
	村道	100.0	96.2	3.8	97.0	3.0
離島全体	国県道	100.0	94.8	5.2	99.5	0.5
	市町村道	100.0	42.8	57.2	65.6	34.4

資料：離島統計年報

( 3 ) 生活基盤

小笠原では復帰以降、復興・振興・振興開発事業において、重点的に公共投資を続けてきた結果、社会資本の整備率は、数値上は離島平均と比較しても充実してきている。

図表 4 - 18 生活基盤の整備状況の推移

項目		S 50	S 55	S 60	H 2	H 7	H 12
小笠原諸島	水道普及率	99.4	99.1	97.8	97.1	99.8	99.3
	水洗化率	-	95.5	97.8	97.1	100.0	100.0
	し尿の施設処理率	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	ごみの施設処理率	-	-	-	-	46.9	72.1
離島全体	水道普及率	76.2	89.2	94.3	95.8	97.1	97.7
	水洗化率	-	10.9	23.5	31.0	36.5	40.0
	し尿の施設処理率	-	63.3	66.0	87.3	86.5	88.6
	ごみの施設処理率	-	78.9	64.7	64.4	63.7	76.8

資料 離島統計年報より

(4) 医療・福祉

小笠原全体では、医療施設が父島と母島に各々ひとつずつあるだけである。人口当たりの病床数は離島平均および全国平均と比較して低くなっている。

医師は平成12年までは常勤の医師が5名(うち歯科医師2名)在島していたが、平成13年度から父島に4名(うち歯科医師1名)、母島に2名(うち歯科医師1名)の6人体制となり、人口当たりの医師数は離島平均および全国平均よりもさらに高くなっている。

特別養護老人ホームを含む老人ホームや老人保健施設は整備されていない。父島の地域福祉センターが高齢者福祉や在宅福祉サービスの拠点となっているものの、母島は父島までの移動を要するため、利用しづらい状況になっている。

図表4-19 医療・福祉環境の推移

		S50	S55	S60	H2	H7	H12
小笠原諸島	医療	病院一般診療所	実数	2	2	2	2
			病床数	15	15	15	15
			人口千人あたり病床数	9.4	8.4	7.8	6.7
	医師	実数	3	4	5	5	
			人口千人あたり医師数	1.9	2.2	2.6	2.2
離島全体	医療	病院一般診療所	実数	649	847	870	873
			病床数	5,437	8,879	9,759	9,993
			人口千人あたり病床数	8.0	9.0	11.0	12.0
	医師	実数	778	1,183	1,315	1,390	
			人口千人あたり医師数	1.0	2.0	2.0	2.0

注1 歯科医師含む

注2 小笠原においては、平成13年から父島に医師が1人追加常駐している。この結果、平成13年は、父島、母島あわせて6人体制となっている。

資料：離島統計年報、「老人保健福祉マップ数値表」(財)長寿社会開発センター

図表4-20 父島、母島における医療施設数、病床数、医師数の現状

	医療施設数	病床数 (人口千人当り)	医師数(歯科医師含む) (人口千人当り)	住民登録人口 (12.4.1)	病床数	医師数 ( )内は歯科医師数
小笠原	2	6.23	2.49	2,409	15	6 (2)
(父島)	1	5.63	2.05	1,955	11	4 (1)
(母島)	1	8.81	4.41	454	4	2 (1)
離島	912	12.65	1.88	794,752	10,050	1,491 (357)
全国	161,540	15.01	1.97	126,071,305	1,864,178	176,317 (8,951)

注：医療施設数、病床数、医師数は、小笠原については平成13年度、離島、全国については平成12年度

資料：管内概要(東京都小笠原支庁)、離島統計年報(小笠原、離島)、医療施設(動態)調査・病院報告の概況(厚生労働省)

#### 4.5 所得

小笠原諸島（硫黄島を除く）の平成13年度の所得額合計は約44億円、一人当たり平均所得額は369万円となっている。

所得額の9割以上は給与所得で占められており、漁業所得は1.1%、農業所得はわずか0.4%である。

図表4-21 通常課税分の所得（平成13年度）

（単位：千円、%、人）

	所得額合計	構成率	人数	平均所得
給与所得	4,081,288	92.8	1,066	3,829
営業所得	115,497	2.6	49	2,357
農業所得	16,326	0.4	6	2,721
漁業所得	46,242	1.1	22	2,102
その他の事業所得	9,813	0.2	5	1,963
その他・譲渡所得	98,207	2.2	26	3,777
年金所得	28,509	0.6	16	1,782
合計	4,395,883	100.0	1,190	3,694

資料：小笠原村調べ

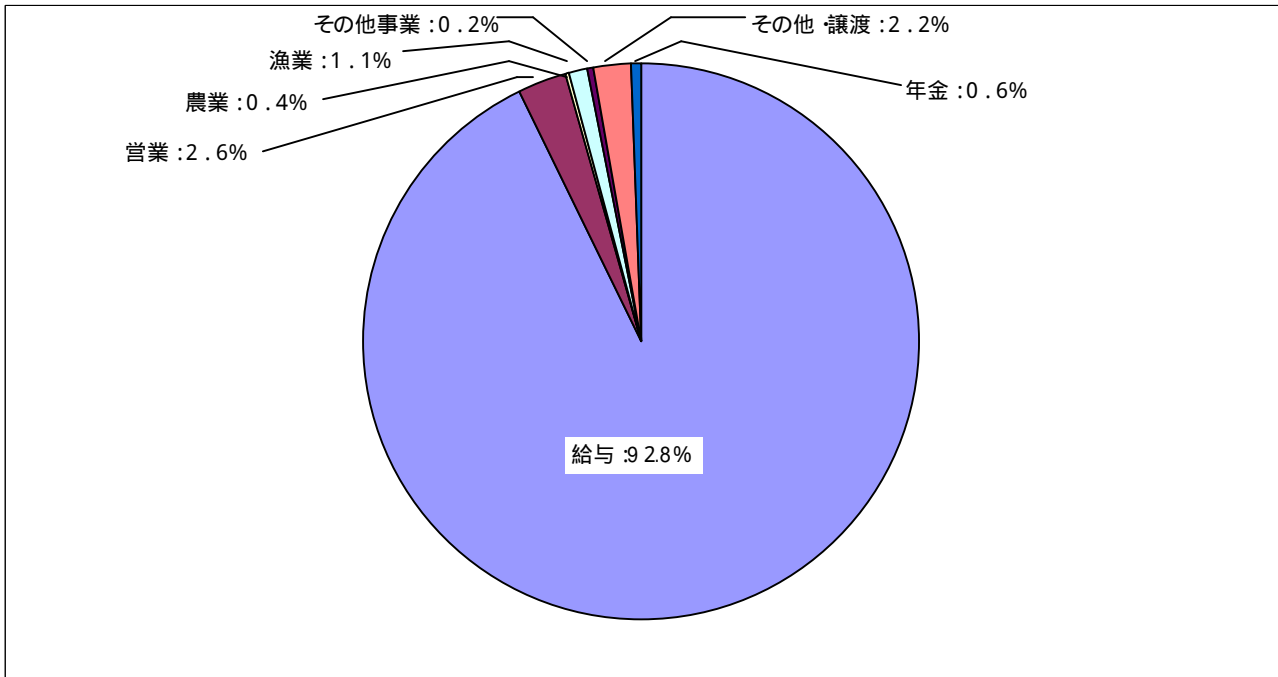
図表4-22 所得分類の基準

給与所得	俸給、給料、賃金、歳費、賞与及びこれらの性質を有する所得（公務員、建設業等を含む）
営業所得	小売業、卸売業、サービス業及びその他の営業などの事業から生じる所得
農業所得	米、麦、野菜、花などの栽培・生産や、農家が兼営する家畜の育成、酪農品の生産などの事業から生じる所得
漁業所得	その他の事業所得の中で、漁業から生じる所得
その他の事業所得	自由職業（医師、土地家屋調査士、音楽個人授業、僧侶など）、畜産業など営業、農業、漁業以外の事業から生じる所得
その他所得	不動産、利子、配当、雑所得など、他の所得分類にあてはまらない全ての所得
譲渡所得	資産の譲渡による所得
年金所得	公的年金などによる所得

\* 複数種類の所得がある場合は、一番大きい所得に分類する

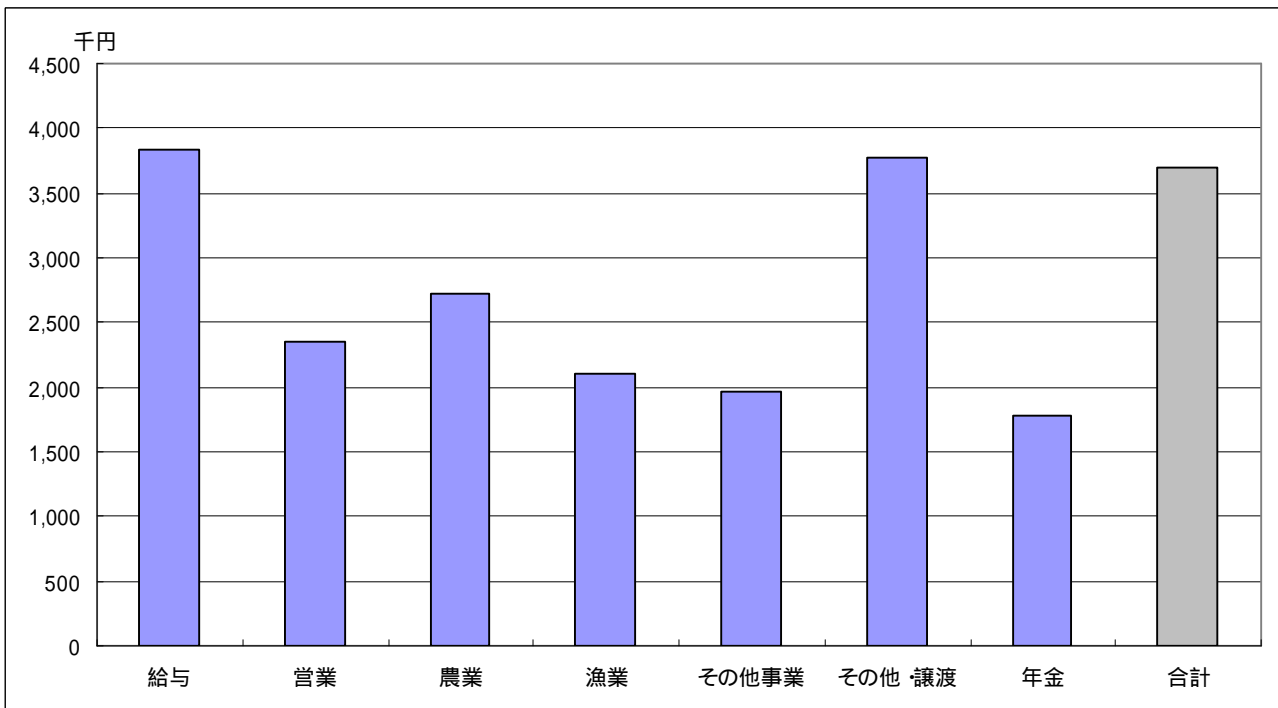


図表 4 - 23 所得額の構成比（平成 13 年度）



注) 父島・母島の所得額合計は 43 億 9,582 万円である。

図表 4 - 24 一人当たり平均所得（平成 13 年度）



#### 4.6 物価

小笠原の物価は、東京 23 区を 100 として比較してみると、品目によっては東京より低いものもあるが、ほとんどの品目で 100 以上となっており、品目によっては、300～500 のものも見受けられ、本土あるいは伊豆諸島の島々と比べて物価の高さが類推される。

小笠原の物価は高いといわれるが、小笠原の物価と本土の物価あるいは類似地域や他の島々を直接的に比較できるデータはない。そこで、次の 3 つのデータからみて、小笠原の物価の高さを類推してみるものとする。

##### 全国物価統計調査（総務省 平成 9 年度）

全国一斉の調査であり、都道府県や主要都市比較はできるが、小笠原はサンプリング対象になっていないため、直接的な比較はできない。但し、都内 23 区のデータがあるので、 と の調査と併せてみることにより小笠原の物価比較の参考にすることは可能。

##### 東京都価格実態調査（東京都 平成 14 年 2 月）

都内 23 区を対象に行なった調査。

##### 小笠原諸島価格実態調査（小笠原支庁 平成 13 年 11 月）

小笠原諸島の父島・母島別に行なった調査で、 の調査項目と重なるものがあり、実施時期は多少ずれるが、物価比較の目安にはなる。

資料 で東京 23 区を 100 にしてみると、全国平均は 86、沖縄県では 81、東京の島嶼（新島・八丈島）では 98 となる。また、資料 と で東京 23 区の物価を 100 にしてみると、小笠原の物価は品目によっては東京 23 区より低いものもあるが、ほとんどの品目で 150 前後から、品目によっては、300～500 のものも見受けられ、本土あるいは伊豆諸島の島々と比べて物価の高さが類推される。

図表 4 - 25 資料 による物価の指数比較

	全国を 100 とした場合	東京 23 区を 100 とした場合
全国平均	100.0	85.8
全国の町村平均	93.8	80.5
沖縄県	94.1	80.8
東京 23 区	116.5	100.0
東京の島嶼（新島・八丈島）	113.6	97.5

図表4 - 26 資料 と からみた対象可能費目別の価格比較

(実数の単位：円)

		実数 (平均価格)				指数 (都内23区を100とした場合)			
		都内 23区	小笠原	父島	母島	都内 23区	小笠原	父島	母島
主食関係	新潟産こしひかり10 kg	5,338	6,085	6,200	5,740	100.0	114.0	116.1	107.5
	食パン (6枚スライス)	158	193	183	202	100.0	122.2	115.8	127.8
調味料	醤油 (1ℓ)	272	314	315	313	100.0	115.4	115.8	115.1
加工調理食品	豆腐 (100g)	32	83	85	82	100.0	259.4	265.6	256.3
魚介類	まぐろ (刺身用100g)	377	229	258	200	100.0	60.7	68.4	53.1
	生するめいか (100g)	75	238	248	220	100.0	317.3	330.7	293.3
畜産品	豚肉 (ロース100g)	226	201	192	213	100.0	88.9	85.0	94.2
野菜類	キャベツ (1kg)	415	171	169	174	100.0	41.2	40.7	41.9
	にんじん (1kg)	407	204	200	210	100.0	50.1	49.1	51.6
	長ねぎ (1kg)	109	571	610	507	100.0	523.9	559.6	465.1
	とまと (1kg)	411	751	770	727	100.0	182.7	187.3	176.9
果実類	みかん (1kg)	237	282	280	285	100.0	119.0	118.1	120.3
日用雑貨品	トイレットペーパー (12個組)	282	512	520	493	100.0	181.6	184.4	174.8
	洗濯用洗剤 (1.2kg)	420	598	638	503	100.0	142.4	151.9	119.8
	シャンプー (780ml)	678	967	959	987	100.0	142.6	141.4	145.6
	ラップ (30cm x 20m)	179	223	218	235	100.0	124.6	121.8	131.3
電気製品類	蛍光灯 (30W 1個)	863	881	655	1,108	100.0	102.1	75.9	128.4
石油製品	灯油 (18ℓ)	1,023	1,560	1,440	1,800	100.0	152.5	140.8	176.0
	ガソリン (1ℓ)	103	190	180	210	100.0	184.5	174.8	203.9
参考 (単純平均)						100.0	159.2	160.2	157.0

図表4 - 27 都内23区を100とした場合の小笠原の品目別指数の度数分布

